

概

況

（此处为模糊的左页正文，内容难以辨识）

（此处为模糊的右页正文，内容难以辨识）

年份	项目	数值	单位
1951
1952
1953
1954
1955
1956
1957
1958
1959
1960
1961
1962
1963
1964
1965
1966
1967
1968
1969
1970

概 況

1 取扱高

(1) 総取扱高

平成 10 年中における東京都中央卸売市場花き部の開場日数は、北足立市場 309 日、大田市場 310 日、板橋市場 257 日、葛西市場 309 日で、前年より北足立市場、大田市場、葛西市場はそれぞれ 1 日増、板橋市場は 11 日減となった。

総取扱実績は、数量については部類によって単位が違うので算出できないが、金額は 851 億 3154 万 2 千円を示した。この金額を前年と比較すると、3.4 % (28 億 705 万 7 千円) の増加となった。また、1 日あたりの取扱高についてみると、2 億 8347 万 5 千円で前年比 3.9 % (1052 万 2 千円) 増という実績を示した。

(2) 部類別取扱高

- ①切花 総取扱数量は 8 億 1426 万 6 千本で、前年比 1.0 % (810 万 4 千本) の減、金額は 553 億 7678 万 1 千円で、前年比 4.8 % (25 億 3651 万 2 千円) の増であった。
- ②切葉 総取扱数量は 6146 万 8 千枚で、前年比 1.6 % (98 万枚) の増、金額は 17 億 3608 万 9 千円で、前年比 2.0 % (3617 万 7 千円) の減であった。
- ③切枝 総取扱数量は 1892 万 9 千束で前年比 11.7 % (198 万 1 千束) 増、金額は 39 億 5009 万 5 千円で前年比 1.7 % (6424 万 6 千円) 増であった。
- ④鉢花 総取扱数量は 2696 万 6 千鉢で前年比 1.4 % (39 万 4 千鉢) の減、金額は 87 億 3898 万 7 千円で 0.3 % (2364 万 3 千円) の微減であった。
- ⑤らん鉢 総取扱数量は 201 万 7 千鉢で前年比 1.4 % (2 万 9 千鉢) の増、金額は 47 億 3393 万円で前年比 0.4 % (1936 万 4 千円) の微増であった。
- ⑥観葉植物 総取扱数量は 943 万 4 千鉢で 0.1 % (1 万鉢) 増のほぼ横ばい、金額は 41 億 7628 万円で前年比 8.8 % (4 億 321 万 5 千円) の減であった。
- ⑦観賞樹 総取扱数量は 372 万鉢で、前年比 11.3 % (37 万 8 千鉢) の増、金額は 19 億 6345 万 3 千円で前年 2.4 % (4679 万 6 千円) 増であった。
- ⑧苗物 総取扱数量は 280 万 5 千箱で、前年比 22.4 % (51 万 3 千鉢) と大幅増、金額は 39 億 2092 万 3 千円で、前年比 17.3 % (5 億 7955 万 5 千円) の増であった。
- ⑨その他花き 総取扱数量は 40 万 1 千箱で、前年比 2.3 % (9 千鉢) の増加、金額は 5 億 3500 万 4 千円で、前年比 4.6 % (2362 万円) の増であった。

部類平均価格の推移 (過去 3 年分)

(単位: 円、%)

	切花	切葉	切枝	鉢花	らん鉢	観葉植物	観賞樹	苗物	その他
8 年	63	30	240	324	2208	537	567	1395	496
9 年	64	29	229	320	2371	573	573	1458	1307
10 年	68	28	209	324	2347	443	528	1398	1336
前年比	106.2	96.6	91.3	101.3	98.9	77.3	92.1	95.9	102.2

(3) 市場別取扱高

① 北足立市場

総取扱金額は 133 億 2605 万 1 千円で、前年比 0.4 % (4746 万 4 千円) の減少となった。

部類別に見ると、数量、金額ともに前年を上回ったのは苗物とその他花きで、前者は数量が 12.5 % (3 万 1 千箱) の増加、金額が 11.9 % (4148 万 7 千円) の増加、後者は数量が 7.0 % (5 千箱) の増加、金額が 16.2 % (763 万円) の増加となった。一方、数量は前年を上回り、金額は下回ったのは切枝で、数量が 10.0 % (38 万 4 千束) の増加、金額が 4.5 % (2997 万 9 千円) の減少となった。逆に数量は前年を下回ったが金額は上回ったのは切花で、数量が 4.6 % (636 万本) の減少、金額は 2.1 % (1 億 8998 万 9 千円) の増加となった。また、数量、金額ともに前年を下回ったのは、切葉、鉢花、らん鉢、観葉植物、観賞樹で、それぞれ数量が 3.8 % (38 万 5 千枚)、8.3 % (35 万鉢)、5.4 % (2 万 2 千鉢)、12.6 % (15 万 1 千鉢)、0.5 % (3 千鉢) 減少し、金額も 7.9 % (2400 万円)、8.7 % (1 億 2744 万 6 千円)、2.2 % (1784 万 6 千円)、12.6 % (6744 万円)、6.6 % (1985 万 9 千円) の減少であった。

② 大田市場

総取扱金額は 482 億 4707 万円で、前年比 5.7 % (26 億 2074 万 3 千円) の増加となった。

部類別に見ると、もっとも大きく伸びたのが苗物で、数量が 21.0 % (32 万 8 千箱)、金額は 16.0 % (3 億 5536 万 9 千円) の二桁増となった。また、観賞樹は数量が 16.3 % (34 万 9 千鉢) と大幅増、金額も 7.1 % (8562 万円) の増加となった。また、切花、切葉、切枝、らん鉢は数量がそれぞれ 2.9 % (1220 万 9 千本)、6.1 % (181 万 7 千枚)、4.6 % (36 万 5 千束)、2.0 % (2 万 2 千鉢) の増加、金額も 7.7 % (21 億 3832 万 6 千円)、1.8 % (1703 万 8 千円)、4.5 % (9426 万 7 千円)、1.0 % (2731 万 5 千円) とそれぞれ増加した。さらに鉢花も数量で 0.9 % (14 万鉢) と微増、金額で 2.9 % (1 億 4344 万 2 千円) 増となった。なお、観葉植物は数量がほぼ横ばい、金額が 9.2 % (2 億 9627 万 5 千円) 減少した。その他花きは数量は 0.7 % (5 百箱) の微減、金額は 11.7 % (5564 万 3 千円) と大幅増となった。

③ 板橋市場

総取扱金額は 129 億 3803 万 6 千円で、前年比 2.0 % (2 億 5715 万 9 千円) の増加となった。

部類別に見ると、著しい伸びを示したのが苗物で、数量が 93.5 % (5 万 8 千箱)、金額が 91.1 % (7649 万 8 千円) と激増した。一方、切枝は数量が 19.4 % (42 万 7 千束)、金額が 2.9 % (2010 万 7 千円)、らん鉢は数量が 13.5 % (1 万 5 千鉢)、金額が 6.5 % (2189 万 4 千円)、観賞樹は数量が 20.7 % (1 万 7 千鉢)、金額が 5.2 % (313 万 9 千円) と、いずれも数量は大幅に増加し、金額はひとけたの増加であった。また、観葉植物は数量が 16.8 % (6 万 2 千鉢) と大きく伸び、金額は前年並み、切葉は数量が 1.3 % (14 万 9 千枚) の増、金額が 0.5 % (143 万 9 千円) の微増だった。切花は数量が 4.8 % (790 万 9 千本) 減少し、金額は 1.5 % (1 億 5195 万 9 千円) の増加となった。鉢花は数量が 14.4 % (33 万 3 千鉢)、金額が 1.3 % (778 万 8 千円)、その他花きは数量が 3.4 % (335 箱)、金額が 19.5 % (1067 万円) とそれぞれ減少した。

④ 葛西市場

総取扱金額は 106 億 2038 万 5 千円で、前年比 0.2 % (2338 万 2

千円)の減少となった。

部類別に見ると、数量・金額ともに大きく増加したのが苗物で、数量は22.8% (9万7千箱)、金額は15.5% (1億620万1千円)という数字を示した。切花は数量が5.9% (604万4千本)の減少、金額が1.0% (5623万8千円)と若干の増加となった。切枝は数量が27.1% (80万5千束)と大幅増、金額は5.0% (2014万9千円)の減少となった。同様に、鉢花、らん鉢、観葉植物、観賞樹は数量がそれぞれ2.5% (14万8千鉢)、4.1% (1万4千鉢)、5.5% (7万8千鉢)、2.5% (1万5千鉢)と増加し、金額は1.8% (3185万2千円)、1.7% (1199万9千円)、6.3% (4008万円) 6.4% (2210万4千円)の減であった。また、その他花きは数量が2.2% (5千箱)の増加で、金額は35.1% (2898万3千円)と大きく減少した。切葉は6.5% (60万枚)、金額が13.2% (3065万4千円)と、ともに減少した。

(4) 卸売業者別取扱高

① (株) 第一花き

総取扱金額は99億2718万7千円で、前年比1.7% (1億7560万1千円)の減少となった。

部類別に見ると、苗物は数量が7.4% (1万2千箱)、金額が7.6% (1710万円)、その他花きは数量が4.8% (2千箱)、金額が10.7% (423万3千円)とそれぞれ増加した。切花は数量が5.2% (558万1千本)減、金額が0.8% (5641万7千円)の微増であった。逆に切枝は数量が16.5% (41万5千束)と大幅に増加し、金額が3.4% (1699万5千円)の減少、観賞樹は数量がほぼ横ばいで、金額が14.9% (2702万4千円)と大幅減となった。また、切葉は数量が5.5% (41万1千枚)、金額で7.0% (1580万5千円)、らん鉢は数量が9.2% (1万9千鉢)、金額で3.8% (1億7332万3千円)とそれぞれ減少した。また、鉢花は数量が10.4% (26万6千鉢)、金額が13.7% (1億2724万2千円)、観葉植物は数量が17.3% (10万8千鉢)、金額が18.5% (4895万4千円)、と大幅に減少した。

② (株) 東京花き

総取扱額は33億9886万4千円で、前年比3.9% (1億2813万8千円)の増加となった。

部類別に見ると、苗物とその他花きが好調で、前者は数量が22.3% (1万9千箱)の大幅増、金額が19.8% (2438万7千円)の増加、後者では数量が9.9% (3千箱)増、金額が45.2% (339万7千円)と大幅な増加を示した。一方、切花は数量が2.6% (78万本)減少し、金額は8.4% (1億3357万2千円)増加し、観賞樹も数量は1.6% (4千鉢)減少し、金額は6.0% (716万6千円)増、鉢花とらん鉢は数量がそれぞれ5.1% (8万3千鉢)、1.6% (3千鉢)と減少し、金額はほぼ横ばいだった。切葉は数量が1.0% (2万6千枚)と微増、金額は10.7% (819万5千円)減少した。切枝は数量が2.3% (3万1千束)、金額が7.5% (1298万4千円)、観葉植物も数量が7.5% (4万3千鉢)、金額は6.8% (1848万6千円)とそれぞれ減少した。

③ (株) 大田花き

総取扱金額は267億5620万7千円で、前年比7.4% (18億4307万2千円)の増加となった。

部類別に見ると、観賞樹が数量50.4% (8万3千鉢)、金額26.0% (3339万9千円)と大きな伸びを示した。また、苗物も数量が35.8% (6万3千箱)、金額が33.6% (7909万3千円)と大幅な増加となった。また、切花、切葉、切枝、らん鉢、観葉植物は数量がそれ

ぞれ2.2% (659万本)、10.2% (204万3千枚)、5.0% (24万9千束)、4.8% (1万2千鉢)、13.9% (10万4千鉢)増加し、金額でも7.3% (14億9658万円)、4.8% (3187万円)、3.9% (5122万5千円)、11.7% (9912万1千円)、2.9% (872万5千円)と増加した。鉢花は数量がほぼ横ばい、金額は4.2% (3709万8千円)増加し、その他花きは数量が18.0% (5千箱)と大幅減で、金額は3.7% (596万1千円)の増加となった。

④ (株) フラワーオークションジャパン

総取扱金額は214億9086万3千円で、前年比3.8% (7億7767万2千円)の増加となった。

部類別で見ると、苗物は数量が19.2% (26万5千箱)、金額が13.9% (2億7627万5千円)、その他花きは数量が11.3% (5千箱)、金額が30.1% (4968万2千円)と大幅な増加が見られた。観賞樹も数量が13.5% (26万6千鉢)、金額が4.8% (5222万19千円)の増加であった。切花、切枝、鉢花は数量が4.8% (561万9千本)、4.0% (11万6千束)、1.2% (14万4千鉢)とそれぞれ増加し、金額も8.6% (6億4174万5千円)、5.3% (4304万2千円)、2.6% (1億634万4千円)増加した。らん鉢は数量が1.2% (1万1千鉢)と若干増えたものの、金額は3.6% (7180万6千円)減となった。また、切葉は数量が2.3% (22万7千枚)、金額が5.2% (1483万2千円)、観葉植物は数量が1.5% (8万4千鉢)、金額が10.5% (3億500万円)とそれぞれ減少した。

⑤ (株) 東日本花き

総取扱金額は75億9412万円で、前年比5.0% (3億6367万4千円)の増加となった。

部類別に見ると、苗物は数量が93.4% (5万8千箱)、金額が91.4% (7645万3千円)と大きく増加した。また、切葉、切枝、らん鉢、観賞樹は数量がそれぞれ7.9% (47万枚)、22.9% (43万1千束)、11.9% (1万1千鉢)、21.2% (1万8千鉢)と大幅に増加し、金額は5.6% (858万5千円)、4.9% (1719万6千円)、1.7% (425万2千円)、5.6% (330万2千円)増となった。一方、切花は数量が1.9% (163万2千本)の減、金額が4.8% (2億6203万2千円)の増加となった。観葉植物は数量が17.0% (6万3千鉢)と大幅増、金額は前年並みであった。鉢花、その他花きは数量がそれぞれ14.1% (32万5千鉢)、4.3% (154箱)減少し、金額も1.2% (719万3千円)、8.5% (163万1千円)減少した。

⑥ (株) 板橋花き

総取扱金額は53億4391万7千円で、前年比2.0% (1億651万6千円)の減少となった。

部類別に見ると、苗物が数量で昨年の6倍となり、金額も23.7% (4万5千円)と激増した。一方、鉢花は数量が85.3% (8千鉢)の激減、金額が44.8% (59万6千円)と半減し、観葉植物も数量が78.2% (497鉢)、金額が87.4% (9万8千円)と激減した。また、らん鉢は数量が23.4% (4千鉢)、金額が20.2% (1764万3千円)と大幅に増加した。しかし、切花は数量が8.1% (627万7千本)、金額が2.3% (1億1007万3千円)、切葉は数量が5.8% (32万2千枚)、金額が5.4% (714万6千円)、その他花きは数量で2.9% (181箱)、金額で25.5% (903万8千円)それぞれ減、観賞樹は数量が19.5% (203鉢)、金額が20.3% (16万3千円)と大幅な減少となった。なお、切枝は数量が1.1% (4千束)の若干の増加、金額も0.8% (291万2千円)と微増であった。

⑦ (株) 葛西花き

総取扱金額は 59 億 1515 万 7 千円で、前年比 0.2 % (1309 万 2 千円) 増とほぼ横ばいとなった。

部類別に見ると、苗物が好調で数量が 47.5 % (1 万 9 千箱)、金額も 34.9 % (3812 万 2 千円) とともに二桁増となった。また、その他花きは数量が 4.5 % (1 万箱) 増、金額が 12.1 % (209 万円) の大幅増となった。観葉植物も数量で 9.2 % (6 万 2 千鉢)、金額で 0.9 % (203 万 4 千円) 増加であった。一方、観賞樹は数量が 2.1 % (3 千鉢) 減少、金額は 5.8 % (387 万 6 千円) と増加し、切花は数量が 6.2 % (442 万 4 千本) 減、金額はほぼ前年並みだった。切葉とらん鉢は数量が 1.6 % (8 万 9 千枚)、9.1 % (7 千鉢) と増加、金額は 7.1 % (1032 万 6 千円)、2.1 % (421 万 6 千円) と減少した。また、切枝は数量が 40.9 % (87 万束) と大幅に増加、金額は 1.8 % (480 万 7 千円) と若干減少した。なお、鉢花は数量が 7.2 % (15 万 1 千鉢)、金額が 4.6 % (2599 万 8 千円) とともに減少となった。

⑧ (株) 江戸川花き

総取扱金額は 47 億 522 万 8 千円で、前年比 0.8 % (3647 万 4 千円) の微減となった。

部類別に見ると、ここでも苗物が数量で 20.2 % (7 万 8 千箱)、金額で 11.8 % (6807 万 9 千円) と大幅な増加を示した。また、切花は数量が 5.4 % (162 万本) 減少、金額は 2.9 % (4392 万 1 千円) 増加した。鉢花が数量を 7.8 % (29 万 9 千鉢) 増、金額は 0.5 % (585 万 4 千円) の微減であったのを始め、らん鉢、観葉植物、観賞樹の数量がそれぞれ 2.6 % (7 千鉢) 2.2 % (1 万 7 千鉢) 3.9 % (1 万 7 千鉢) 増加、金額は 1.6 % (778 万 3 千円)、10.5 % (4211 万 4 千円)、9.3 % (2598 万円) 減少した。切葉は数量が 18.7 % (68 万 8 千枚)、金額が 23.6 % (2032 万 9 千円)、切枝は数量が 7.7 % (6 万 5 千束)、金額が 11.2 % (1534 万 2 千円) と大幅に減少した。さらに、その他花きは数量が 52.5 % (5 千束) と激減、金額も 47.7 % (3107 万 3 千円) と半減した。

2. 月 別 市 況

1月

「切花」

取扱数量は前月比 32.8 %減、前年比 11.6 %減、平均価格は前月比 8 円安、前年比 6 円安となった。

入荷は、上・中旬は降雪の影響を受けて減少。

相場は、上・中旬が入荷減少ながら消費が冷え込み低迷するも、下旬は業務需要の品薄感から小反発。

主要商品別では、輪菊・小菊が良品が少なかったものの、業務需要主体で堅調。チューリップは中旬まで末端消費が奮わず弱保合も、下旬から反発した。スイトピーは、天候不順の影響で品薄が目立った。

「鉢物」

取扱数量は前月比 34.9 %減、前年比 6.8 %減、平均価格は前月比 281 円安、前年比 6 円安となった。

切花同様、中旬までは降雪の影響で入荷・相場とも低迷したが、下旬から徐々に回復して平年並みとなった。

主要商品別では、ファレノプシスが品質にばらつきがあるものの総じて品薄高。プリムラ類及びベゴニア類は下旬から上向くも、全体的に軟調相場。ポトスは冬場ということで引き合い弱く軟調。サイネリアはここ数年生産量の減少から入荷も少なかったが、弱保合。

2月

「切花」

取扱数量は前月比 18.1 %増、前年比 0.6 %減、平均価格は前月と同額、前年比 2 円高であった。

入荷は、日照不足など天候不順の影響により品目・品質ともばらつきが見られた。

相場は、旺盛な業務需要があったものの、入荷の増減に引きずられる形となり、高安まちまちとなった。

主要品目別では、輪菊が日照不足による白色系上位品の品薄感に業務需要が重なり、強保合。小菊が赤色系は品薄高、その他は保合。カーネーション及びチューリップは中旬まで婚礼需要中心に強保合も下旬以降引き合い弱まり弱保合。スイトピーは天候に左右され、上旬は品薄高により堅調だったものの、気温が上昇した中旬以降集中出荷のため反落した。

「鉢物」

取扱数量は前月比 24.3 %増、前年比 7.4 %増、平均価格は前月比 14 円安、前年比 7 円安となった。

入荷は、鉢花を中心に潤沢となった。

相場は、潤沢入荷により安値感があったものの、気温の上昇とともに引き合い強まり、保合となった。

主要品目別では、プリムラ類は潤沢入荷も品質よく、安定した相場。サイネリアは中旬まで弱保合も、気温が上昇した下旬から堅調に推移した。ファレノプシスは小鉢ものはまずまずであったが、その他は弱含みの相場となった。ポトスはシーズン直前ということもあり、軟調相場。

3月

「切花」

取扱数量は前月比 53.6 %増、前年比 2.9 %減、平均価格は前月比、前年比とも 9 円高となった。

入荷は、前月に続き生育不良及び前進開花により質・量とも

に安定感に欠けていた。

相場は、彼岸期まで入荷減少による品薄高。下旬以降も品薄感に卒業式需要が重なったことで強保合となった。

主要品目別では、菊類は品薄高。特に、小菊は主産地の沖縄が降雨続きで質・量ともに低下したため、彼岸期に高騰した。カーネーションは彼岸に卒業式にと引き合い強く、一月を通して強保合。スイトピーは最大需要期に品薄のため高騰した。

「鉢物」

取扱数量は前月比 40.5 %増、前年比 4.6 %増、平均価格は前月比 26 円高、前年比 20 円高となった。

入荷は順調。

相場は、後半こそ気温の上昇及び卒業式需要により安定取り引きされるも、総じてまちまちとなった。

主要品目別では、プリムラ類は卒業式等業務需要が旺盛で、中旬以降品薄高。ファレノプシスはピンク系が引き合い強く堅調も、その他は弱保合の相場となった。ベゴニア類は安定した需要に支えられ、保合。ポトスは、小鉢を中心に堅調な取引であった。

4月

「切花」

取扱数量は前月比 27.6%減、前年比 3.3 %増、平均価格は前月比 12 円安、前年比 1 円高であった。

入荷は、量的には昨年並みも、春期の花が気温の上昇により早めに終了し、入荷の空白が生じるなど不安定であった。

相場は、入荷不安定による需給バランスの崩れが価格形成に影響し、高安まちまちであった。

主要品目別では、輪菊は色物が品薄感から強保合も、白色系はまちまち。カーネーションは、中旬まで低調も下旬から母の日用として引き合い強まり高騰。シャクヤクは、上旬に荷動きよく保合となったが、中旬から鈍り弱保合。

「鉢物」

取扱数量は前月比 8.9 %増、前年比 1.6 %増、平均価格は前月比 20 円安、前年比 33 円安であった。

入荷は、順調。

相場は、週末の天候悪く軟調であったが、中旬以降、安値安定ながらも徐々に上向いた。特に、花ものの引き合いが強まった。

主要品目別では、カーネーションが母の日に向けて堅調。ポトスは入荷に偏りが見られたが、引き合いあつて保合。ベゴニア類は中旬以降黄・ピンクの濃色系を中心に引き合い強まり強保合となった。ファレノプシスは、入荷多めで弱保合。インパチェンスは品質はよかったものの、割安感があった。

5月

「切花」

取扱数量は前月比 5.2 %増、前年比 4.3 %増、平均価格は前月比 7 円高、前年比 1 円高となった。

入荷は、大幅前進した品目と生育不良により遅れた品目との二分化された形となり、バランスを欠いた。

相場は、入荷の流れをそのまま反映し、集中したものは低迷し、品薄となったものは高騰した。

主要品目別では、輪菊は先月からの品不足が続き、色物を中心に品薄高。小菊は中旬以降潤沢な出回りとなり、落ち着いた値動きとなった。カーネーションは母の日までは保合も、以後生育遅れのものが多数入り、下落した。スターチス類は順調に取り引きされ、保合となった。

「鉢物」

取扱数量は前月比 5.9 %増、前年比 3.7 %減、平均価格は前月比 35 円高、前年比 8 円安となった。

入荷は、らん鉢、観賞樹などの入荷が多く、昨年同様潤沢となった。

相場は、母の日向けの鉢花はまずまずとなったが、その他は荷動き悪く弱保合となった。

主要品目別では、ベゴニア類が母の日までは堅調も以後値を下げ、弱保合。ファレノプシスは入荷は多かったが、小鉢の引き合いしかなく総じて弱保合。ハイドラングアは潤沢入荷で前半低迷するも、シーズンとなる後半から徐々に保合となった。インパチェンスは一月を通しやや強めの相場となった。

6月

「切花」

取扱数量は前月比 12.8 %減、前年比 0.9 %減、平均単価は前月比 14 円安、前年比 5 円安となった。

6月が高冷地への産地切り替えが本格化する時期であるが、今年は暖冬及び猛暑の影響により 10 日前後前進しており、品目によっては入荷が輻輳した。

相場は、だぶつき感があるところに猛暑・梅雨が重なったため、荷動きが非常に悪く、弱保合となった。

主要品目別では、輪菊が上旬に集中出荷され、単価を下げた。中旬以降も買い気なく相場は低迷した。バラ及びデルフィニウムは、ブライダル需要に支えられ、保合。ひまわりは、前半は集中出荷されて単価を下げたが、後半から持ち直して保合となった。

「鉢物」

取扱数量は前月比 31.8 %減、前年比 6.0 %増、平均価格は前月比 16 円高、前年比 16 円安となった。

全般的に天候不順による出荷時期のズレや梅雨の影響により、入荷・相場ともに不安定であった。しかし、苗物は不安定な入荷ながらも旺盛なガーデニング需要に支えられ、安定した相場となった。

主要品目別では、インパチェンスの入荷が少なかった上、園芸植替えなどによる引き合い強く強保合。ベゴニア類及び日々草は、上旬まで強気の相場だったが、気温の上昇とともに単価を下げた。

7月

「切花」

取扱数量は前月比 17.7 %増、前年比 11.3 %増、平均価格は前月比 1 円高、前年比 1 円安となった。

入荷は、6月後半からの高温により高冷地ものが前進開花し出荷されたため、潤沢となった。しかし、旧盆向けの花が7月後半に出回り始めるなど悪い面が目立つ入荷増であった。

相場は、上旬がだぶつき感から弱保合。中旬は新盆向けの手当てで小反発したものの、下旬は旧盆との谷間と言うこともあり、再び下がった。

主要品目別では、輪菊・小菊が高冷地前進開花のため潤沢入荷。新盆期間中は高騰し、それ以外は弱保合。りんどうも前進により潤沢に入荷したが、中旬まで保合も、以後急落した。カーネーションは小菊の高騰を受けて代替品として引き合い強まり強保合。トルコキキョウは入荷増と需要期が重なり、需給バランスがとれて保合となった。

「鉢物」

取扱数量は前月比 20.2 %減、前年比 5.4 %減、平均価格は前月比 6 円高、前年比 20 円安となった。

入荷は、らん鉢が前進開花のため中旬以降減少した以外は順調。

相場は、気温上昇で花保ちを心配した小売店が買い控え、弱保合。特に、苗物にその傾向が見られた。

主要品目別では、ハイビスカスが良品は安定していたが、それ以外は弱保合となった。インパチェンスは後半やや値を下げたが、総じて安定していた。ポトスは、昨年入荷増から例年の入荷に戻り相場も保合。日々草は、少なめの入荷で高品質にもかかわらず、引き合い弱く安値による取引が続いた。

8月

「切花」

取扱数量は前月比 8.9 %減、前年比 1.8 %増、平均価格は前月比 8 円高、前年比 2 円高となった。

入荷は、引き続いていた前進開花が 10 日頃から一段落したため、昨年並みとなった。

相場は、旧盆という一大需要期に入荷が減少したこともあり、仏花やその代替品の引き合いが強まった。そのため、洋花を除いた品目全般で強保合となった。旧盆以降は、高値疲れや大雨などの天候不順もあり、やや弱い相場となった。

主要品目別では、輪菊が旧盆需要に対する入荷が著しく少なく、高騰した。小菊も輪菊同様高騰するが、旧盆過ぎに弱まった。バラは、昨年並みの入荷も引き合い少なく弱保合。りんどうは入荷が多く、中旬以降弱保合。

「鉢物」

取扱数量は前月比 25.1 %減、前年比 0.4 %減、平均価格は前月比 49 円安、前年比 49 円安となった。

入荷は、ぼさぎく等の秋物が一部前進出荷されたが、全般的に順調。

相場は、残暑や大雨の影響を受けて末端消費が奮わず、弱保合となった。特に、観葉植物、苗物は7月からの引き合い弱い状態が続いた。

主要品目別では、ベゴニア類及び日々草が暑さなど天候の影響により品質低下が目立ち、弱保合。ハイビスカスは、鉢花全般が低調でも夏季商材として人気が高く、大量入荷も保合相場となった。デンファレは、中鉢中心に荷動きよく堅調。ポトスは、小鉢を除いて総じて弱い相場となった。

9月

「切花」

取扱数量は前月比 15.5 %増、前年比 1.3 %減、平均価格は前月比 5 円高、前年比 4 円高となった。

入荷は、露地物への台風・長雨等の影響が大きかったこともあり、昨年同様少なめとなった。また、品質の低下も目立った。

相場は、品薄状態のところへ敬老の日及び彼岸需要で引き合いが強かったため、上旬から高値づき、一月を通して品薄高のまま推移した。

主要品目別では、菊類が天候不順のため入荷が少なく、中旬から高騰。彼岸後も品薄高が続いた。バラ及びカーネーションは日照不足により品質低下が目立ったが、比較的順調な入荷と婚礼需要等に支えられ、保合。りんどうも品質の低下が見られ、上旬は値を崩したが、後半から品薄高となった。

「鉢物」

取扱数量は前月比 56.1 %増、前年比 4.2 %増、平均価格は前月比 13 円高、前年比 22 円高となった。

入荷は、施設内栽培が主ということもあり、天候の影響は切花ほどではなく、順調であった。

相場は、敬老の日に向けて鉢花・らん鉢・観葉植物の一部が好調であった。しかし、そのほかの品目は買い気奮わず、弱

保合となった。

主要品目別では、菊類は近年作付け面積が減少傾向にあり品薄感から小幅高も、ぼさぎくは相変わらず人気がなく低調。ペゴニア類及びカランコエは入荷が安定せず、全体的に品薄感があり強保合となった。ファレノプシスはミディ系が堅調も全般的に弱保合。ポトスはポットものがまずまずだった。

10月

「切花」

取扱数量は前月比 27.0 %減、前年比 12.0 %減、平均価格は前月比 17 円高、前年比 7 円高となった。

入荷は、台風被害の影響や前進出荷により大幅に減少した。

相場は、品薄状態に加え、旺盛な業務需要があったため、強保合となった。全般に品質が悪い割に割高感のある相場であった。

主要品目別では、菊類は前年に比べ 20 %も入荷が減少し、著しい品薄高となった。バラは少ない入荷に引き合いが強まり、強保合で推移した。カーネーションは数量的には昨年並みの入荷も品質はいま一つで、上位等級品が少なかった。くじやく草は順調な入荷で取引も堅調だった。

「鉢物」

取扱数量は前月比 12.2 %増、前年比 1.9 %減、平均価格は前月比 10 円高、前年比 24 円安となった。

入荷は、上旬は天候不順のため少なめであったが、天候が回復した中旬以降に増加した。

相場は、中旬以降気温が低下するに従って、秋冬物の需要が高まり、堅調な取引となった。

主要品目別では、プリムラ及びカランコエなど花物は上旬は天候が悪く全般的に買い気奮わず低迷するも、中旬以降は天候回復とともに活発化し、堅調となった。パンジーなどの苗物や観葉植物は堅調。ファレノプシスは安定取引で保合。

11月

「切花」

取扱数量は前月比 5.1 %減、前年比 2.1 %増、平均価格は前月比 1 円高、前年比 24 円高となった。

入荷は、9月の台風・長雨による影響や高冷地から暖地への産地切り替えが影響し、昨年同様少なめとなった。

相場は、全体的に品薄状態のところイベント及び婚礼など業務関係の引き合いが重なったため、強保合となった。

主要品目別では、輪菊は昨年並みの入荷も引き合いが大変強く、強保合。カーネーションは入荷減少品目の代替品として引き合いが強かった。バラは潤沢入荷も旺盛なイベント需要により強保合。ストックは主産地である山形県のもので、積雪のため開花が遅れ入荷が激減、高騰した。

「鉢物」

取扱数量は前月比 4.4 %減、前年比 9.8 %減、平均価格は前月比 107 円高、前年比 3 円安となった。

入荷は、花苗が天候不良のため開花が遅れるなど、全体的に少なめとなった。

相場は、一部品薄により高騰する品目があったが、全般的には年末商材の品揃え需要を基調として保合となった。

主要品目別では、パンジーは開花遅れのため大幅に入荷を減らし、高騰。プリムラ類及びシクラメンは入荷のばらつきが見られ、品薄時は高騰することもあったが、品質の悪さや下旬からの年末商材品揃えの終息もあり、総じて保合となった。シンビジュームは昨年より 1 割ほど値を下げたが、開花遅れによる品薄感のため保合傾向。

12月

「切花」

取扱数量は前月比 37.1 %増、前年比 4.7 %減、平均価格は前月比 5 円安、前年比 8 円高となった。

入荷は、11月に引き続き全体的に少なめとなったが、一部下旬から急増した品目があるなどバランスを欠いた入荷となった。

相場は、全般的に品薄高も、クリスマス・正月向け商材は例年に比べ安値傾向。これは、前半の品薄高の反動及び消費者の低価格志向を反映した形となった。

主要品目別では、バラは他品目が品薄の中、入荷順調。クリスマス向けの赤色は強保合も、その他は弱保合。ストックは入荷が昨年に比べ半減し、高騰した。

「鉢物」

取扱数量は前月比 3.7 %増、前年比 0.2 %の微増、平均価格は前月比 189 円高、前年比 38 円高となった。

入荷は、遅れていたシクラメン、ポインセチア等の主力商品の産地がようやく出回り始めるようになったため、ほぼ昨年並みとなった。ただ、日照不足による品質低下が目立つなど良品が少なかった。

相場は、品質の悪さから値頃感がある商品が少ないため、品薄の気配が漂い、総じてやや強めとなった。

主要品目別では、シクラメンは品質によりまちまち。ポインセチアは前半、品揃え需要により堅調。以後、保合。シンビジュームは入荷順調、良品を中心に堅調な相場となった。